

## ATACの最近の活動状況 - 昨年の回顧と今年の展望 -

財団法人 大阪科学技術センター

ATAC運営委員(ATAC News編集担当)

池田 隆果

ATACの活動についてはその都度ATACNewsに掲載していますが、今回この一年を振り返って改めてご紹介するとともに、本年に計画している主な活動についてもお知らせして今後のご理解・ご支援をお願いしたいと思います。

### 1. ATAC講演会

3月11日と9月30日の2回、テーマを「5S」、「生産管理」、「原価管理」など、すぐにも企業の経営改善に役立つテーマを選んで開催しました。また、(株)三鈴の鈴木雅也社長から「中国におけるビジネス展開の光と影」と題する企業の関心の高い話をさせていただきました。

参加者はいずれも80数名を数え、講演会後の無料相談会および交流会を通じて企業が抱えておられる課題を伺い、アドバイスさせていただきます。

本年は3月2日に「ISO関連」のテーマで開催する予定にしています。

### 2. 社長懇話会

企業トップの相互研鑽を支援する目的で年2回程度の開催を続けています。

12月1日にコンピューター用電源などの有力メーカーである(株)ニブロン(尼崎市)を見学し、酒井節雄社長の示唆に富んだ講話を拝聴しました。20名の企業トップの参加を得て盛会でした。詳しくは本誌掲載の別記事をご参照下さい。

### 3. 展示会参加

11月9・10日に開催された「産産学ビジネスマッチングフェア2010 with大阪大学」に出展し、また11月12日には「大阪市信用金庫 - 大阪市立大学 産学連携セミナー」に出展し、梶原ATAC運営委員長が「製品化のための支援施策の紹介」と題してATACのコンサルティング活動の事例を紹介しました。

これら2つの展示会には毎年出展していますが、相談に来訪された企業とはその後もコンタクトを続けており、コンサルティングに繋がったケースもあります。

### 4. 講師派遣

京都府中小企業技術センター(綾部市)からの依頼で一昨年12月~昨年1月および6~7月

に、「金属材料」、「高分子材料」、「繊維材料」、「生産管理」、「品質管理・品質保証」、「5S」、「新製品開発」、「製品設計」、「IT導入・活用」のテーマで、また、(財)京都産業21(京丹後市)からの依頼で3月に「金属材料」、「機械切削加工」のテーマでそれぞれ地方の企業の技術者数十名を対象にATACメンバーが講義を行いました。今後も中小企業の技術力向上に協力する所存です。

また、学校法人立命館から昨年も引き続き大学3年生対象の産学協同アントレプレナー教育プログラムの「製品事業化システム論」の講義の依頼を受け、8名が各自の経験を講義しました。

### 5. 宿泊見学旅行

ATACメンバーの研鑽のために毎年実施している行事で、12月8・9日に徳島地方の4企業を訪問しました。シンビジウムの新種栽培で有名な(株)河野メリクロン、樹脂フィルムシーラーの富士インパルス(株)三好工場、天然木から極薄板の紙を作り出す(株)ビッグウィル、合成樹脂を原料にした機能紙のトップメーカーの阿波製紙(株)阿南工場、と今回も地方の元気なものづくり企業を見学することができました。詳細は本誌別記事を参照下さい。

### 6. ATACMATE交流会

ATACの兄弟グループは現在、大阪、奈良、和歌山、岡山、広島と5グループを数えますが、毎年全グループが集って中小企業支援に関する知恵・工夫を交換し合っています。今年は4月初めに大阪に集って情報交換する予定です。

### 7. ATAC設立20周年記念行事

本年は1991年にATACが設立されて丁度20年を迎えるので、記念行事の計画を固めている段階です。

10月に講演会と記念交流会を開催し、またこの機会にATACでこれまでに取り組んできた環境問題に関する活動を取りまとめて出版する予定にしています。

中小企業支援のコンサルティングそのものに関しては具体的には触れませんでした。ATAC発足以来の支援企業は170社、コンサルティングの件数は延べ700件を数えるまでになりました。引き続きご支援を賜りますようお願い申し上げます。

A T A C 活動の紹介 **第14回ATAC社長懇話会の記録**

## これからの100年に挑戦する「株式会社ニプロン」 工場見学と酒井社長の講演

師走となった平成22年12月1日に、ATAC第14回社長懇話会を開催しました。企業経営者20名のご参加を得て、株式会社ニプロンの阪神夢工場（尼崎市）を見学した後、酒井節雄社長より会社の生い立ちから経営理念などにわたって示唆に富んだ講演を頂きました。

**工場見学**

2008年に稼動した新鋭工場で、主力製品であるパソコンなどの電源装置の製造ラインを見学した。

プリント基板の機械実装工程から、セルライン方式による部品の組立て・検査工程など、パソコン用の小型電源から工業用や特注品の大型電源まで多種類の電源が作られている様子を見学することができた。

**会社概況**

1967年8月天神橋6丁目で酒井電技商会として産声をあげた。1970年資本金1000万円で(株)日本プロテクターとして法人化し、2001年に「(株)ニプロン」と社名を改め、現在は、資本金3億4千万円、従業員245名の中堅企業である。法人化したとき酒井社長は26歳であり、その後の社会が必須とする安定化電源装置の開発に着手され、市場化を図る事業を始められた。現在は、市場のあらゆる分野の

産業用パソコンの心臓部となる高品質ATAX電源を月当たり4万5千台製造し、国内外に供給している。

なかでも、次期商品としてグリーン市場対応のソーラーコンバータを始めとするエネルギーコンバータ等の高品質電源を多岐に亘って研究開発していることは、これからの日本が必要とする社会貢献型企業であると確信する。また、現在の50億円弱から数年後の100億円販売を計画する事業ビジョンは、日本が最も希求しているものづくりの事業会社と言えよう。

**酒井社長の講演から**

酒井社長の講演を聴いて、昨年報じられたノーベル賞受賞科学者が辿った道を連想した。幾たびも壁に突き当たるも、あきらめずどこまでも失敗を次の研究計画に生かして栄光へたどり着いた科学者の姿に重なって見えた。酒井社長は、信頼した大手企業とのコラボの失敗、事業の一端を委ねた人の裏切り、市場判断の見誤り等々、普通なら憎み、悲しみ、絶望に心が傾きがちになるものであるが、何れの場合もプラス思考で捉えて次段の経営判断資料にされている。社員の幸福、社会への貢献、時代の要請に応える事業ビジョン等々は、(株)ニプロンのDNAとなっている氏の起業理念が源泉であると感じた。

今回参加下さった企業経営者の皆さんも、自分の経営に資する経験談を聞かれて、明日の自社経営に活かされることと推察している。酒井社長の、まさしくこれからの企業100年の道標の講話に対して、ATACからも主催者として深く謝意を表したい。

ATACは絶えず時代が求める企業形態への探求に資する社長懇話会を企画しています。次回も多くの経営者の方々と意見交換できることを期待してお待ちしています。

(三原記)

# 特集 ■ 徳島地方の元気な企業見学記

## 河野メリクロン、富士インパルス、ビッグウィル、阿波製紙見学記

ATACでは毎年優れた技術や製品を持つ企業を訪問して見聞を広め、コンサルティング活動に役立てていますが、昨年（2010年）12月8～9日には徳島地方の4つの企業を訪問しました。

### 株式会社河野メリクロン

美馬市にある、1977年に創設された洋ラン栽培の企業です。

フランスで発見された無菌状態でのクローン技術を河野通郎社長が1964年にシンビジウムに応用し、以来500種以上の新種の登録を行い、洋ランに関しては世界最大級の評価を得ています。

胚芽の状態から店頭に並ぶまでには10年もの歳月をかけて栽培しなければならぬが、ここで生み出された「あんみつ姫」や「マリーローランサン」など多数の品種をショールーム兼直売所の「あんみつ館」で拝見し、シンビジウムに対する認識を改めました。

河野社長の『「よく似た」は親を超えられない』という含蓄のある言葉が印象に残りました。とにかくランに対して並々ならぬ愛情を注いでいることをひしひしと感ずることができ、その仕事をどこまで好きになるかということが大事だということを感じました。

### 富士インパルス株式会社 三好工場

豊中市に本社がある、樹脂フィルム製の袋をシールするインパルスシーラーのトップメーカーで、徳島県の山間部の三好郡東みよし町に誘致企業と



して進出し、20年目を迎えています。

細田和代工場長以下28名で、300種類もの製品を製造し、売上高は富士インパルス全社の50%を占めています。

工場長の案内で製造現場を見学しました。小型のお茶袋をシールするハンディーシーラー、袋内を真空排気してシールする真空包装機、黄卵液を充填して封じるシーラー、医療用滅菌シール機など各種シーラーや賞味期限を袋に印字する卓上型印字器などの組み立て工程や、印字をつくる切削機の作業を見ることができました。

工場内は隅々まで整理整頓が行き届き、「しつけ」を含めて5Sが徹底して実践されていることを感じました。

仕事と同時に妻、母として立派に三役を果たされている、地元出身の細田工場長の自信のほどが伺われました。

### 株式会社ビッグウィル

当社は大阪市で20年以上製造研究をしていた企業から技術を引継ぎ、2007年に同じく東みよし町に設立された従業員15名、生産能力2万m<sup>2</sup>/月の天然木の極薄ツキ板シートを製造販売している企業です。

三原恵二郎取締役の案内で製造設備と製品を見

学しました。

丸太から削りだした0.2mm厚さの木目が鮮やかな極薄板の帯を継いで長くし、裏打ちしてまげても折れないように加工します。天然木を



使用しているのも同じ柄のものではなく、印刷物やビニール製では感じることはできない天然木特有の香りや感触が特徴です。

このような特徴を生かして、表面の木目が珍しい「樹の紙」から、熨斗袋、はがき、ブックカバー、短冊等の小物文具やハンドバッグなどの商品群が開発販売されています。また、裏面に特殊な裏打ちをした不燃性のシート「恋樹百景」は、壁、天井、テーブル、ソファなどのインテリアに使われます。最近では0.1mm厚さのシートの開発にも成功し、ドレスにデザインされて注目を浴びました。

吉野川流域の有数の森林地区に立地して、若者への雇用の創出と間伐材の新利用法を目指している、地域に根差した企業だと感じました。

### 阿波製紙株式会社 阿南工場

阿波製紙は大正の初めに、阿波の名産品であった藍染で財をなした豪商などが出資し、地元産の楮(コウゾ)・三桎(ミツマタ)を使って和紙を作り出したのが始まりです。



やがて、昭和34年ごろから主力を特殊機能紙の製造に移し、自動車・家電などで使用される各種フィルター、海水淡水化や薬液の濃縮・分離などに使用される逆浸透膜支持体紙など、機能紙、不織布の分野でナンバーワン企業にまで成長するに至りました。

徳島の南方に位置する阿南工場を訪れ、濱義紹取締役常務執行役員らの案内で同社の最新鋭の抄紙工場を見学しました。紙の原料である合成繊維が配合された液を濾過して紙に抄き、圧縮・乾燥して2.4mもの幅のあるロールに巻き取るプロセスは圧巻でした。

古くは和紙を作っていたこの土地で、合成繊維を抄いて機能紙を作り、世界に貢献するなど、当時の人々が想像し得ただろうかと感慨深いものがありました。

旅の途中では、祖谷渓谷に懸かる「かずら橋」をへっぴり腰で渡ったり、美馬市脇町の「うだつのある町」では藍商の旧家を見物したりと、企業見学以外にも徳島地方の自然や歴史にも触れ合えた有益な2日間でした。

（白石、多根井、長田、池田(雅)記）

# 企業 PR コラム

## ～環境にやさしい配管用継手に挑戦～

古林工業株式会社  
代表取締役専務 古林達也

当社は創業以来70有余年一貫して配管用の継手を製造しています。主として鋼管や鋼板を原材料とした熱間又は冷間加工により独自の技術ノウハウを持って継手以外の多種多様な付加価値製品

を創り出す事が出来ます。特に液圧によるバルジ成形法(液圧で管を膨らませて成形する)は世界で初めて管継手に応用したパイオニアであり、蓄積した技術で高品位の製品を得ることが可能です。近年、溶接技能工の不足や環境問題を重視して脱溶接の傾向にありフランジ接合の継手や管端不メッキのメッキ継手な



◆オリジナル製品 FF継手/FG継手

どユーザーニーズに即応したオリジナル商品を開発、販売しております。

ATACさんとは平成9年4月から1年半の間生産の合理化のご支援を頂き現場力を身につけ、また平成21年6月から1年半の間、BCPの構築についてご支援を頂きマニュアルを完成することができました。



古林工業株式会社  
大阪市西成区津守3丁目3番17号  
TEL 06-6661-1751 (代表)  
FAX 06-6658-7489  
URL <http://www.fkkosaka.co.jp/>

## ATAC活動の内容 PR

ATACは長年の経験により培った独自の技術とノウハウを、中堅・中小企業の方々が抱えられるモノづくり、技術開発、人材育成等の諸問題の解決を支援し、発展に資することを目的としています。

### 1. コンサルティング

中堅・中小企業の皆様がお悩みのさまざまなテーマについて、コンサルティングを行います。

- ・モノづくり(合理化・5S・品質改善・新製品の開発)
- ・生産管理システムの構築
- ・事業継続計画(BCP)作成支援
- ・公的資金の導入支援

### 2. セミナー開催・講師派遣

従業員教育、経営管理、ISO関連、品質管理などのセミナーを企画・実施し好評を博しています。講演会・研修会へ講師派遣も行ないます。

- ・フレッシュマンパワーアップ研修(3日間)
- ・管理職～中堅社員の社内研修(内容・必要日数は相談に応じます。)
- ・社長懇話会

### 3. 書籍刊行

- ・ATACの経営便利帳
- ・現場の課題解決はこうする(中堅・中小企業の業務改善例)
- ・中堅・中小企業へのATAC提言集(1)～(6)
- ・目からウロコのアドバイス～中小企業経営者への提言～

### 4. 産学連携のお手伝い

企業の技術ニーズをお預かりして、最適な技術シーズを持つ大学や研究機関などを探し、ご紹介する業務です。

## 相談無料

まずは、ご連絡下さい

(財)大阪科学技術センター  
技術・情報振興部  
ATAC事務局

Tel [06-6443-5323](tel:06-6443-5323)

Email [atac@ostec.or.jp](mailto:atac@ostec.or.jp)

URL <http://www.atacne.jp>

ATACニュース、Webに関するご意見、ご要望なども、どしどしお寄せ下さい。

## 編集後記

今号は巻頭でATACの最近の活動状況をご紹介しました。また、昨秋以来の主な行事である社長懇話会(株)ニブロン、酒井社長講話)と宿泊企業見学会(徳島地方の4企業)の様子を掲載して御参考に供した結果、「ATACが指導できる専門分野シリーズ」欄と書評欄を割愛するという、いつもと違うページレイアウトになりましたがご了解下さい。(池田(隆))